

2019年3月 ことばのテーブル学習会

キーワードから考えることばの学習(21)

プレゼンテーションと
作文について考える

言語・学習指導室
葛西ことばのテーブル
三好純太

プレゼンテーションとは何か

- 提示・説明・表現
- 自分の考えを他者が理解しやすいように目に見える形で示すこと

三省堂 大辞林

- 商品をわかりやすく説明すること
- 口頭で説明するだけでなく、スライドやビデオなどの説明用具を使って、大がかりに、実施することもある。

流通用語辞典 (Jericho)

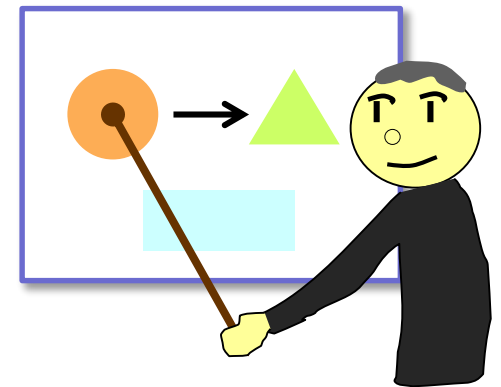
プレゼンテーションとは

- 本来は広告会社が広告主に対して行う、宣伝計画の提示を意味したが、研究発表や様々な計画案の発表もプレゼンと呼ばれるようになった。

美術用語事典(横浜美術学院)

* プレゼンター

プレゼンテーションを行う人



そして、プレゼンを行う際に

現在、もっともポピュラーに使われている
説明用具といえは

パワーポイント

だと思われる

では、パワーポイントは
どのようなものだろうか？

パワーポイントとは

Power Point

- プレゼンテーションソフトウェア
- Forethought社が開発・発売したものを
ロバート・ガスキンスと デニス・オースティンによって開発
マイクロソフト社が買収。
- 現在は、マイクロソフトやアップルの
多くのパソコンに標準装備されている
- 最新はバージョン2019。プレゼンテーションのためのさまざまな機能を備えている

プレゼンテーションで今まで 使われ来た視覚資料技術

- パンフレット・配布資料
- 黒板・ホワイトボード
- フリップ(図や表を示す大型カード)
- ポスター
- OHP(オーバーヘッドプロジェクター)
- スライド映写機

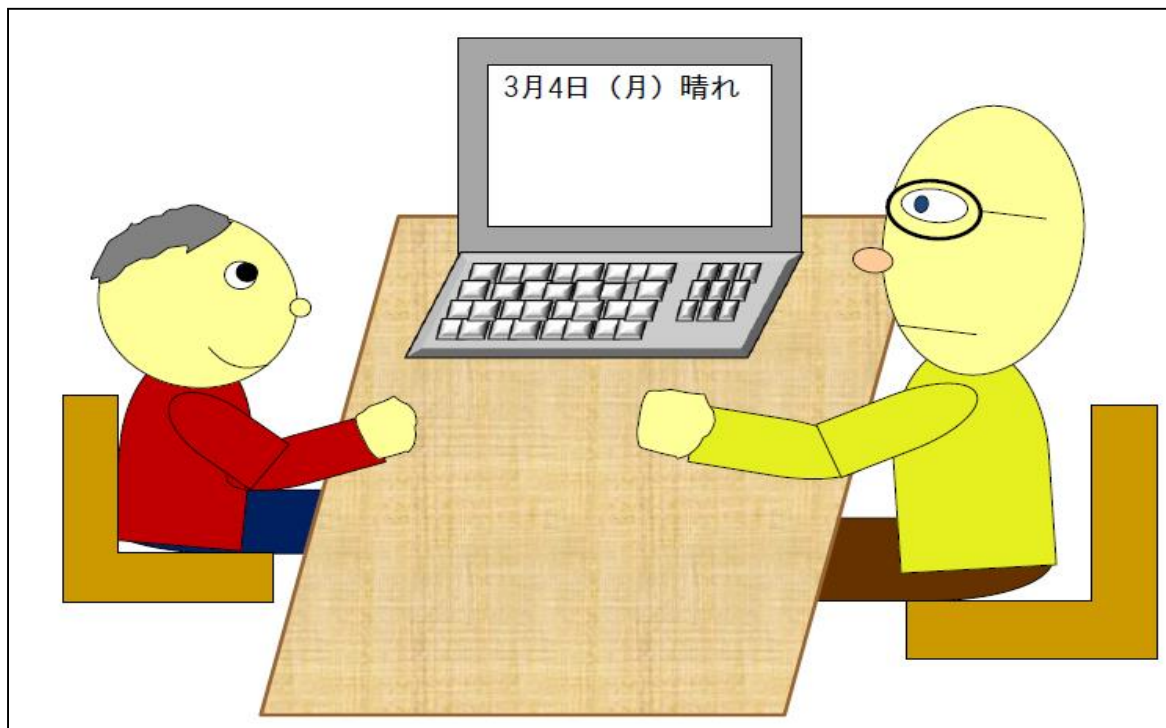
↓
パワーポイントはこれらをすべて補う

パワーポイントの代表的な機能

Power Point

- スライド作成とスライドショー機能
- アニメーションの設定機能
- 音・画像・映像の付加・挿入機能
- ノート機能
- コメント挿入と書き込み機能

パワーポイントの
これらさまざまな機能を使って
ことばのテーブルでのPCを介した学習は



ほぼパワーポイントのみで行っている

パワーポイントで行うこと

- 口頭作文
- キーボード入力練習
- 10秒映画の作文


スライドへの
文字・文章入力

- 「先生のお話」(* プレゼンを聴く)
- 発声練習
- ひらがな学習
- 絵カードのポインティング・呼称練習

・スライドショー
・アニメーション

●ノート機能について

2009年より、ことばのテーブルでは、
指導記録を、パワーポイントの
デジタルデータとして保存している

子どもひとりずつに、パワーポイントの
個人ファイルを作成

日々の指導での文字入力練習や口頭作文、
10秒映画の言語化などを
スライド1～2ページ分に作成

指導の記録方法

指導内容やホームワークについては
指導時間中もしくは指導後に
紙のルーズリーフに記入・記録



指導後、ルーズリーフに記載した内容を
パワーポイントのノート部分に転記

指導開始から現在までの記録を
紙および電子ファイルとして保存



SD

PP(パワーポイント)による指導録サンプル

* 子どもが見ている画面

3月4日 月曜日 晴れ

「野球の試合のこと」

きのう、野球の試合がありました。ぼくたち西葛西ファイターズは、浦安マリーンズと対戦しました。ぼくは7番ライトで出場しました。試合は、3対1で、ぼくたちファイターズが勝ちました。ぼくは3打席1安打でした。守備では、ボールが1回も来ませんでした。試合のあと、みんなでアイスを食べました。つぎの試合は、また来週の日曜日です。

子どもと作った口頭作文

PPによる指導録サンプル:ノート部分

3月4日 月曜日 晴れ

「野球の試合のこと」

きのう、野球の試合がありました。ぼくたち西葛西ファイターズは、浦安マリーンズと対戦しました。ぼくは7番ライトで出場しました。試合は、3対1で、ぼくたちファイターズが勝ちました。ぼくは3打席1安打でした。守備では、ボールが1回も来ませんでした。試合のあと、みんなでアイスを食べました。つぎの試合は、また来週の日曜日です。

スライド部分

おもに、子どもによる
表出活動を記載する

● 口頭作文

● 10秒映画の説明
など

2019年3月4日

【学習内容】

1 PC入力(かなB)

* 口頭作文

「野球の試合のこと」

2 先生のお話:「ギョーハンを作ったこと」

質問:OK

3 会話練習⑨

4 フット⑥

5 伝える練習⑧: ~は~で山に行く

表現:OK

6 聴解

RD説明26 +1/3

7 拡大練習(6W)⑦

8 HWチェック

● HW

1 しりとりを書こう

3 絵を探そう

4 伝える練習

5 RD説明

N6 O×問題

7 単語配列

8 おしゃべりをつなげよう

9 足りない線

10 形合わせ

11 フット

12 P配列

13 なかまわけ

14 俳句のことば

15 3W連

16 定義

【assessment】

【information】

【主訴・希望】

ノート部分

その日の指導記録や
ホームワーク、インフォメ
ーションなどを記載する

パワーポイントを使った プレゼンテーションの一例

菅江真澄について

菅江真澄

(1754～1829)



菅江真澄肖像

※三好による模写

原本は秋田県立博物館蔵

・江戸時代の旅行家・文筆家

北日本をくまなく歩き、そこで
見聞した地誌・民俗について
の膨大な記録を残す

「菅江真澄全集」「菅江真澄遊覧記」などの
著作を通して真澄の旅を知ることができる

真澄の足跡

- 三河で生まれる。本名白井秀雄
- 天明3年、30才で故郷を離れ、
東北地方への旅に出る
- その後、主に北日本を旅しながら
各地の地誌や民俗を克明に記録
- 50代後半以降は秋田に暮らし、
主に秋田地方の地誌編纂を行う

真澄は書いた旅日記をどうしたか

あるいは 何のために書いたのか



人に見せるために書いた

同じ日記の写本を作り、その土地の人に
譲り渡すこともあった

地域の人にとって、自分たちの地誌や生活を
調べたものは、貴重な資料であり感謝された

人に見てもらおうための日記なのだから
自分が知らせたいことを

どうしたらしたら、より分かりやすく
伝えることができるか
どうしたら、より効果的か

そして、たぶん

どうしたら楽しんでもらえるか

について工夫と努力を重ねた

真澄の記録方法

真澄は、旅日記の体裁で、
各地の事柄を記録したが、
日記は主に3つのメディアで
構成されている

1 文章

2 和歌

3 絵

☞「シークエンス」

絵について

* 真澄は日記の中に多くの絵を残した

風景を始め、人物、服飾、道具、植物、人々の暮らしのさま etc. あらゆるものを克明に描き、貴重な歴史資料となっているが・・・

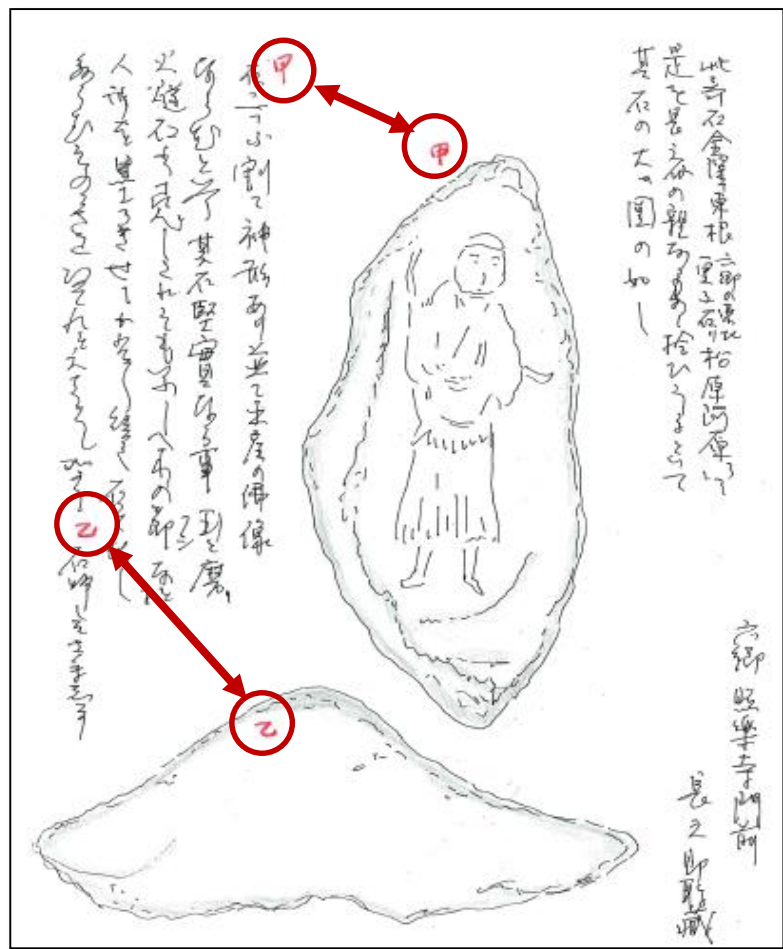
真澄は、その絵の見せ方にも

色々な工夫を施している。

その中で代表的なのが・・・

「絵引」の手法

絵引とは、絵に描かれた事物の一つ一つに
番号をつけて、名前付け・解説をするもの



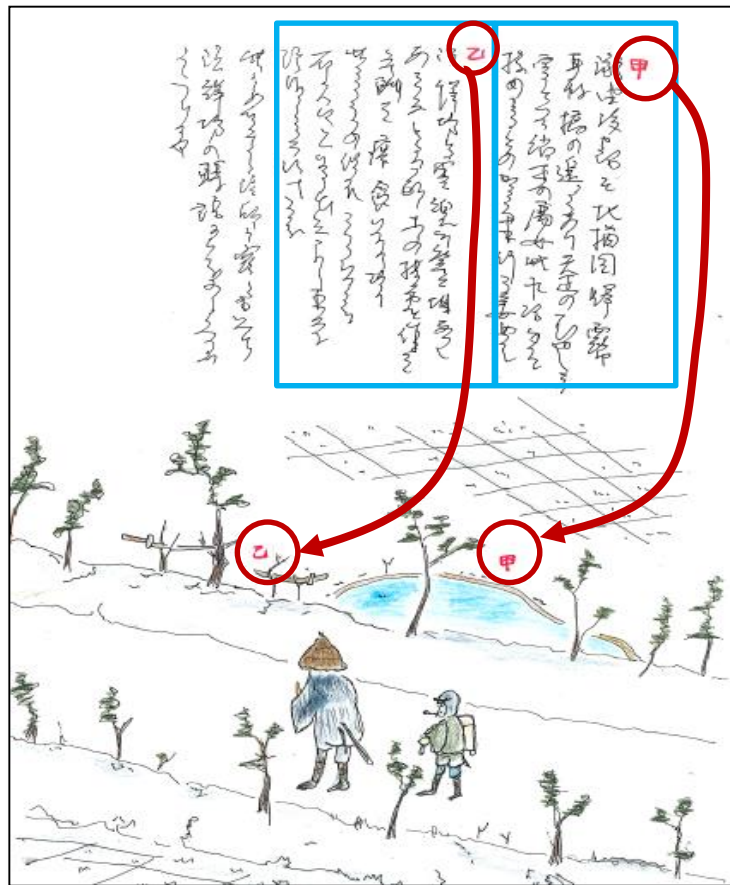
菊池は、
「探求の人菅江真澄」(2017)
の中で
絵引のスタイルは
「真澄の独創性が
きわめて高い試み」
と述べている

「月の出羽路」より ※三好による模写

原本は秋田県立博物館蔵写本

また真澄は、文章に沿って風景を描いた

その風景画の多くにも、絵の中の
各部分に番号を振り、解説を施している



日記の文を読みながら、
同時に、絵を目で追うと

読者は歩く真澄と
一体になって
変化する景色を
見ていくことになる

真澄の旅日記には
動画機能もあった！

「月の出羽路」より ※三好による模写

※あくまで個人的見解

このように、様々な工夫をしながら

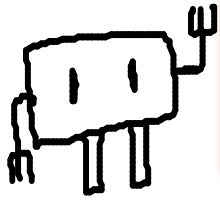
情報や考えを、他者に目に見える形で
わかりやすく示すこと(大辞林)

を、生涯をかけて追求した真澄は

そのような意味で、プレゼンターであり

プレゼンのパイオニア

と呼べるのではないだろうか



今回のキーワード

字幕スライド

関心と共感

シーケンス

旅の学び

今回のお話しの流れ図

プレゼンテーションの基礎知識

プレゼンテーションの実例

菅江真澄
の紹介

自分のプレゼンテーションの手法

字幕スライド

学習としてのプレゼンテーション

関心と共感

シーケンス

作文について考える

つたえる作文

学びについての考え

旅の学び

プレゼンテーション

について考える

自分自身のプレゼンについて

不特定多数の聴き手を対象にした
「発表・報告」という意味でのプレゼンを
研修会や学習会などで、続けてきた

プレゼンは、時代とともに
PCに装備されたソフトを
使ったものになっていったが
そのなかで

自分のプレゼンの型といえるようなものを
少しずつ作り上げてきた

自分なりのプレゼンの型は

プレゼン作りの **how to**

として、多少の参考になる部分もあるかと思うが

プレゼンをうまく行うための工夫が、

考えることそれ自体を

援助したり、影響を与えている

と感じるようになった

ということで **プレゼン作りの持つ意義について**

まず考えてみたい

ことばのテーブル学習会のプレゼンの作り方(1)



話のテーマを決める

日ごろの生活の中で
何となく常に考えている

思い浮かぶことや
気づいたことを
整理カードなどに書く

最近では、直接スライドに
書く(作る)ことも多い

適当にどんどんスライドを作る

「はじめに」を
書き始める

スライド作りの過程で、新しい内容を増やして行く

スライドが200枚程になったところで整理する

スライド作成の過程

最初はメモ的なものを大まかに作る



↓

1枚1枚のスライドのレイアウトを整えたり、
図形効果(色・影・ぼかしetc.)などを加える

↓

スライドの内容(文面・イラスト等)の
細かい推敲・調整や、修正を行う

↓

アニメーションを設定する

このようなスライド作りに

自分なりに思いついた工夫を
ところどころ採り入れているが

その中で、いちばんの
特徴ではないかと思われるのが

「字幕スライド」と名づけているもの

字幕スライド

字幕スライドとは

プレゼンで話すことばのほとんどを
スライドにのせる

そして

話す順序で、スライドに出現させる

というもの

話が途中で止まってしまうプレゼンを
試行錯誤する中で、出来ていったもの

以前作っていたスライドの例

「ひらがなの指導」より

●ひらがなの学習

Word 単位での学習

文字単語と意味内容の対応づけ

- 目的
- ①ひらがな学習の導入として
 - ②限定されたコミュニケーション手段として
 - ③聴覚入力に比較して、視覚的入力が優位

- 開始条件
- ①文字単語の形態弁別が可能
 - ②学習する単語の意味理解が必要

方法 多種の文字ひらがな漢字カタカナを素材とする
⇒ 弁別・対応づけをしやすくするため

▲項目と内容のみを記載

▲一度に全内容が出現

字幕スライドの例：学習会「副詞について考える」より

では・・・もし

このやりとりで、「やっ」ということばを
しょう君が、覚えることができるとするなら
しょう君の方では、どんなことが必要か。

それはたぶん

文脈の理解

と

共感

だと思われる

アニメーションの順序

0 では・・・もし

1 このやりとりで、「やっと」ということばを
しょう君が、覚えることができるとするなら
しょう君の方では、どんなことが必要か。

2 それはたぶん

3

文脈の理解

と

共感

4 だと思われる

字幕スライド作成プロセス

テキストボックスを使って、
スライド内のコンテンツ(内容)を作成



テキストボックスにアニメーションを設定

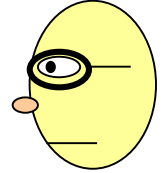
* スライド上への出現・消去が中心



アニメーションの作動確認

字幕スライドの目的・役割

1 発表者にとって

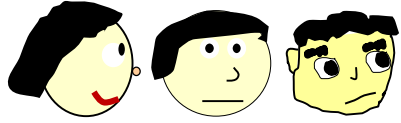


● 話に詰まらない

スライドが、シナリオを兼ねているので
何を言いたいか忘れてしまって
頭が真っ白になることがない

● プレゼンの尺(長さ)の見当がつく

字幕スライドの目的・役割



2 聴き手にとって

● 説明の流れを追いやすい

アニメーションを追うことで、

いまスライド上のどの部分についての話をしているかがわかる

● 話のつながりがわかりやすい

各スライド間が、ことばでつながっている

のりしろスライド

①

②

③

ので、話のつながりもわかりやすい

のでは、と思っているのだが、どうだろうか？

そして字幕スライドは

プレゼンの内容そのものを考える上でも
非常に大きな役割を果たしている

それは、字幕スライドを作る過程で

伝えたいことを、本当に自分が
理解しているのか、整理できているのか
が明確になり、そして

字幕スライドを作る作業が

伝えたいことをより深く考え、
また筋道立てることにつながっている

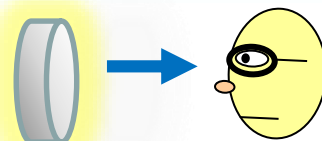
逆の見方をすれば、自分の場合

字幕スライドが作れないということは

話そうとすることが、
わかっているようで良くわかっていない
ことを示している

字幕スライドは、自分の知識や
考えの足りなさに気づかせてくれる
鏡のような存在だといえる

では..もし
このやりとりで、「やっど」ということばを
しよう君が、覚えることができるとするなら
しよう君の方では、どんなことが必要か。
それはたぶん
文脈の理解 と 共感
だと思われる



ところで、字幕スライドには
ことばが話す順に出てくる
アニメーションがつけられているが

アニメーション設定のプロセスも
自分にとっては大きな意味がある

アニメ設定のプロセス



全スライドが完成した後、
プレゼン日の2~3日前につける

なぜ発表の2~3日前につけるか

アニメーション設定の作業が、
そのまま発表のリハーサル(予行演習)


になるから

アニメ設定は、作ったシナリオを
もう一度なぞり、読んで行く作業

だから 発表直前のタイミングで行う

さらにもう一度、アニメの作動確認を
するので、計2回リハを行うことになる

字幕スライド以前は・・・

たとえば2時間のプレゼンなら、
そのリハーサルを同じ2時間の長さで
当日と同じように行っていて
とても大変だったが 

いまはその負担がなくなり、また

プレゼンにかかる時間の
予測が立つようになった

字幕スライドを始め

プレゼンテーションのための
工夫を通して

自分なりに物事をより深く考え
また

自分の考えや知識の状況を
洞察できるようになった

と、個人的には感じている

自分の話を伝える手段としての
プレゼンテーションについて
触れてきたが

プレゼンテーションは

ことばのテーブルでの日々の
指導の中でも行っている



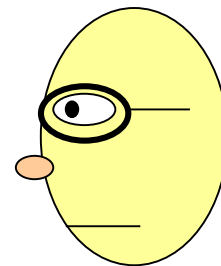
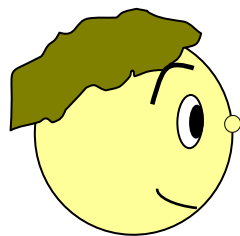
学習としてのプレゼンテーション

学習としてのプレゼンテーション

子どもが

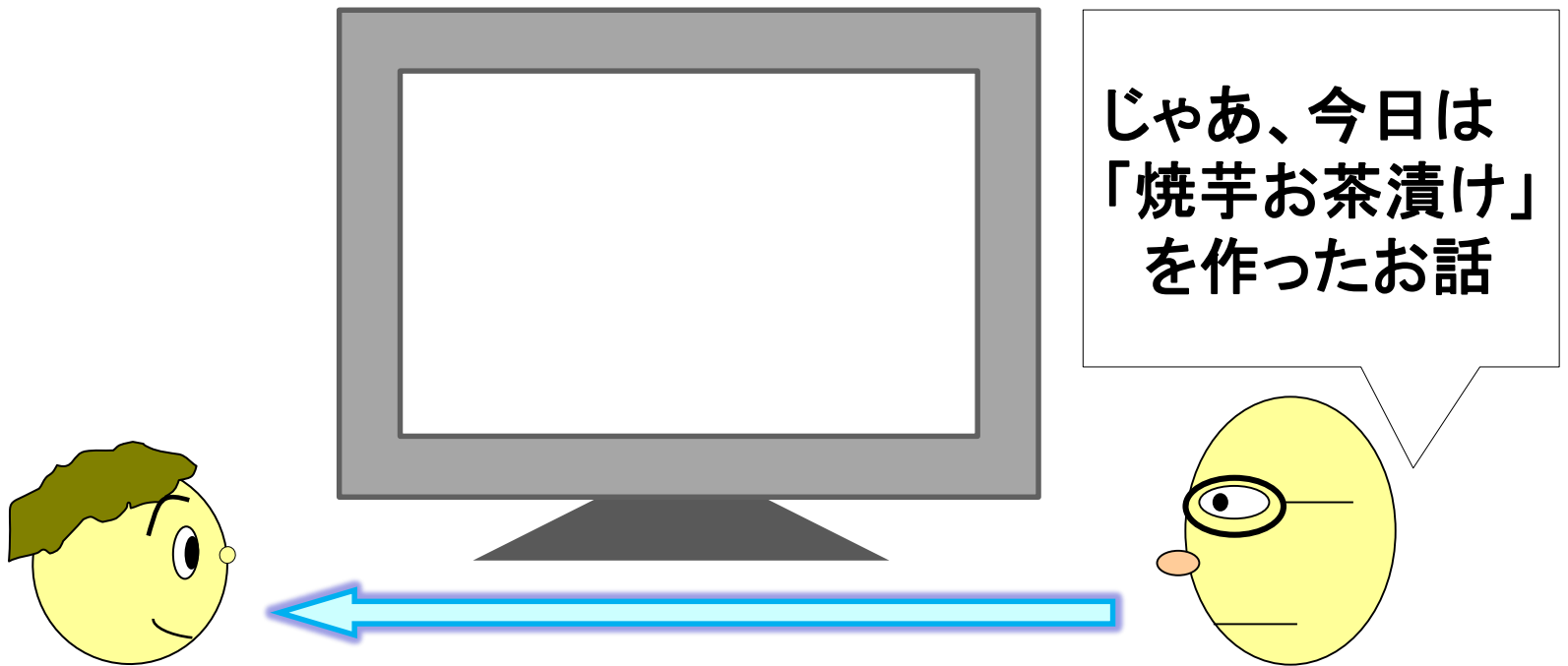
プレゼンテーションを聴く

プレゼンテーションを行う



プレゼンテーションを聴く学習例

先生からのお話



👉 学習会「語りについて考える」「質問について考える」

「先生からのお話」の流れ

自分自身の体験を短いお話にして語る

パワーポイントのスライドショーで
写真や、動画を見せながら話を進める

ときにグッズなどの実物も

話を聞き終わったあと、話の内容について、子どもに、何か質問をしてもらう

交代してこちらからも質問をする

「先生からのお話」の目的

● 語りの学習

なるほど…



- * 語りのモデルに触れ、自分の語りの参考とする

● 質問の練習



なにを食べたの？

- * 話の内容の中で、情報のなかった部分を見つけて、先生に質問をする

● 相手（他人）に興味を持つ



- * 語りを聞くことを通して、相手を知り、関心を持つ

先生のお話例 **プリントを売りに行ったこと**





JR東日本

新潟駅



住まいを通じて
生涯のおつきあい

MISAWA

ミサワホーム









ことばの
テーブル

本日は
100
円引き

新教材
です!

100例プリント
第22集
生活ストーリー
読解ワーク
1100円

教材ガイド
ことばのテーブル教材集の
目利と使い方
2018年度版
300円

100例プリント
第22集
生活ストーリー
読解ワーク
1100円

100例プリント
第22集
生活ストーリー
読解ワーク
1100円

100例プリント
第22集
生活ストーリー
読解ワーク
1100円

ことばのテーブル学習会
レジンメ資料

新発売
生活ストーリー
読解ワーク
100例プリント 22集

2018年度版
教材ガイド
ことばのテーブル教材集の
目利と使い方



新潟市マンガ・アニメ情報館

NIIGATA MANGA ANIMATION MUSEUM























「お話」を、どのように選ぶか

★来室ペースが早い子には・・・

最新のもの。お話のネタが、すぐ足りなくなるので、日々、どこかに出かけたり、何かしたりしている

伝達前提経験

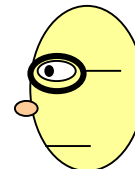


どっか行かなきゃ

★話のストックがある子には・・・

その子が生活経験のあるもの、興味がありそうなものを選んで話す

* 子どもが選ぶ場合もあり



ひろこちゃんは電車が好きだからな

どんなお話が、人気があるか

- * 食べ物がでてくるもの
- * 動物や乗り物が出てくるもの
- * 変わったモノ・コトが出てくるもの
- * 失敗したり、うまくいかなかったこと

これらをできるだけ

話に盛り込むようにしている

また、もうひとつ

お話作りで、こころがけているのは..

典型的なモノ・コト と 変わったモノ・コト

~といえ
ば的
なもの

の バランス

思いがけないもの

たとえば、長野に行った話だったら

リンゴ並木

を紹介するとともに

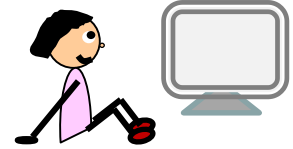
御嶽海のポスター

を見せる

👉「関心と共有」

「先生のお話」のプレゼンは

子どもにとって鑑賞体験



と考えている

鑑賞とは、作品を楽しむこと

子どもに楽しんでもらうために、
話の内容や表現方法を考えることは、
作り手の能力や態度として必要だが

同時に、聴き手の方にも、[楽しむ]ために
備えていなければならないものがある

関心と共有

作品を理解し楽しむために

話を聴くのであれ、読書であれ
映画や芝居を見るのであれ
それを鑑賞し、楽しむためには

鑑賞をする人が、その作品に対して

関心と共有がなければならない

その二つがなければ、作品は、
事実だけの報告か、理解の及ばぬもの

どちらかに、なってしまうだろう

関心について

話を積極的に聴いてもらうには、子どもに**関心**を持ってもらう必要があるが..

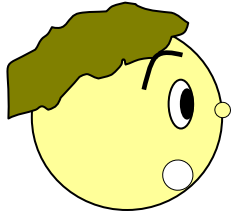
同じ話を繰り返したり、日常的なことを話しても関心は得られない

⇔ 幼児は繰り返しや当たり前を好む

関心は **自分のまだ知らないこと**

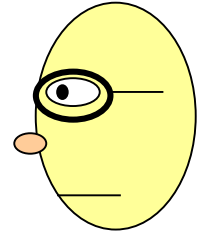


未知 に生まれるもの



新潟ってどんなところだろう？

やきいも茶漬けって何なの？



じゃ今から
お話するよ

人間は

いつも新奇な何かを探し
その答えを求めて生きている

人間の持つ問題解決志向が

鑑賞の原動力

では・・・鑑賞は未知から来る関心だけで
成り立っているのだろうか
たとえば・・・

まったく知らない世界、知らない生物
知らないモノ、知らない価値観etc

もし、そういったものだけで
繰り広げられる話があれば、
最高に楽しいのだろうか

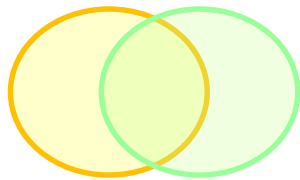
多分・・・楽しむことはできないし、
話を理解することも難しいかも知れない

鑑賞には

関心とともに **共有** が必要

共有とは、
人と人が共に有するもの

その共有の枠組みの中で



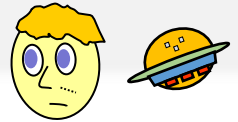
作品は成り立っている

どんな奇想天外なファンタジーもSFも

その基本的な枠組みは
人間の営みやところを基盤としている

そこに人間としての
共有がなければ
楽しめない

映画「スターウォーズ」は、
一般人間代表のハン・ソロが
出なくなってから、つまらなくな
った気がするが...



つまり鑑賞には未知とともに

共有という 既知が必要

鑑賞における既知とは



「あ、これは知っている、分かる」
と認識できるもの

「知っている・分かる」には、
いくつかの種類がある
そのひとつは

話の内容

話の構造

についての基本的知識

話の内容についての基本的知識

たとえば 「ナマハゲが行われている」

と書かれていたときに
「ナマハゲ」については
まったく知らなくてもいいが、

世の中にはいろいろな
風習や行事があるのだ

と、いうことを知らなければ
何のことやらわからないだろう

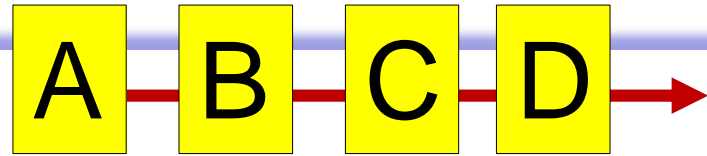


「男鹿の寒風」より
※三好による模写

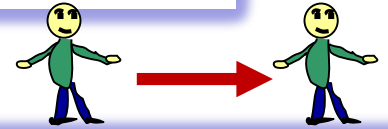
話の構造についての基本的知識

たとえば

話は基本的に



時間軸に沿って語られる



日本語の場合、主語がなく話が続いていたら、同じ人物の出来事と捉える

などの、話の構造についての知識も
理解には欠かせない

これら社会の事柄や
物語構造についての基本的知識は

常識 といえるもの

常識とは みんながふつうに
知っていること、
そうだろうと考えること

ミーニング 👉 学習会「副詞について考える」

鑑賞には常識が必要

そして、知識としての常識とはまた違う

「知っている・分かる」がある

たとえば菅江真澄の旅日記には

いくども「あはれ」ということばが出てくる

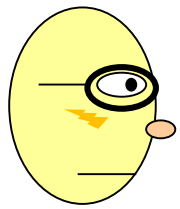
飢饉の村のありさまを見たときも、
悲恋の話を聞いたときも

真澄は「あはれ」とつぶやく

真澄の日記には、非日常的な事柄が
多く出てくるが

遠い江戸の人が、文化の異なる
東北についてのその文を読んでも

現代に生きる自分が、その文を読んでも



どんな所でも、いつの時代でも などと
人の思いは変わらないなあ 感じる

それは 気持ちの「知ってる・わかる」

それが 共感 に他ならない

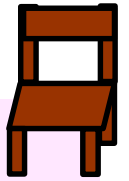
すなわち共感は **こころについての既知**

自分も同じような経験をし

同じような気持ちになったことがある

そのようなものについて感じるもの

たとえばもし、世界のどこかに



椅子に座っただけで腹が立ってくる、
という不思議な民族がいたとしたら

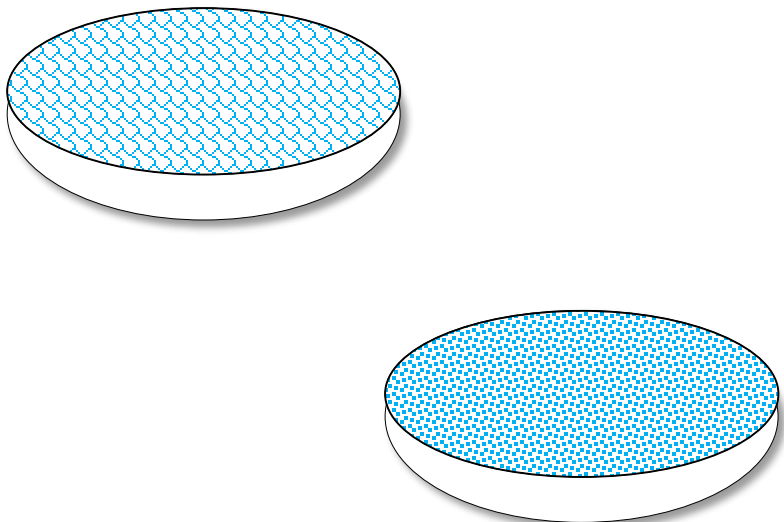
驚きはあっても共感はできないだろう

秋風や

模様の違い

皿二つ

原石鼎



作品を楽しむとは

常識の枠組みの中で

語り手や登場人物に**共感**しながら

自分が思いもよらなかった未知に

関心を寄せて行くこと

そのためには

鑑賞する者は、常識と共感を育て

また作り手は、鑑賞者が楽しめるような

設定や表現を考えなければならない

ところで既知と未知の関係は

知っていることが増えれば、
知らないことがその分減る

というものではなく

知識や経験が増えるほど

未知は広がって行くもの

知識や経験は、未知を拓き

さまざまなものへの関心を高めて行く

シーケンス

内容をより良く伝えるために

シーケンスとは

●連続。筋道。順序。

●映画・テレビの作品で、物語を構成する単位。いくつかのシーンを繋いでエピソードを形成するもの

精選版 日本国語大辞典

物語の中でのエピソードのひとまとまり

たとえば レストランで食事をするという
というシーケンスなら・・・

カット・シーン・シーケンス

レストランでの食事

シーケンス

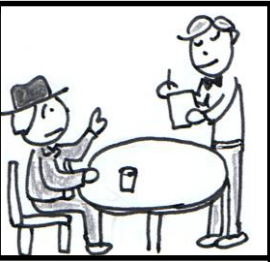
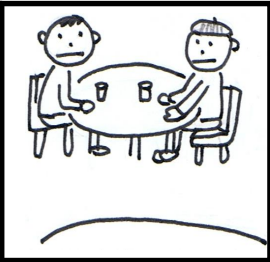
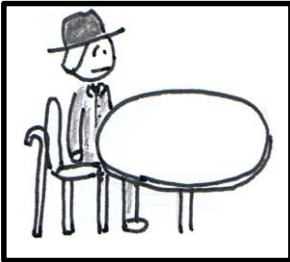
シーン

レストランに入る

カット



カット



.....



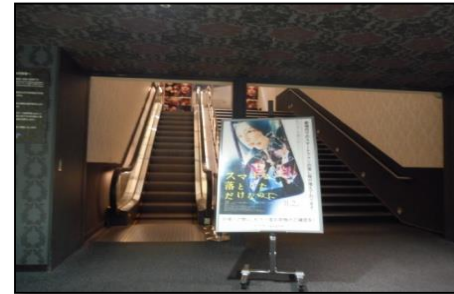
ところで「先生のお話」の際に

うまくプレゼンできたなあというときと
ちょっと失敗だったなあ
ときがある

テーマや内容が不適切、ということもあるが
失敗を繰り返すうちに **写真の見せ方**
に問題があり

それは **シークエンスのまとめ方**
が上手くないことに気がついた

失敗の例:「プリントを売りに行ったこと」



「プリントを売りに行ったこと」の話の場合

最初は写真の枚数が多くなるために

[**展売会場**]と[**新潟駅**]と[**栃尾に行くバス**]
の写真を入れていなかった

それで話(プレゼン)をしていたのだが
話しずらく、またわかりにくい感じがあった

そこで先の3枚の写真を入れたところ

話がしやすくなり、子どもにとっても
わかりやすい印象があった

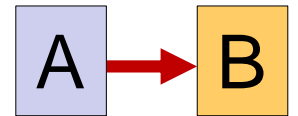
これは シーケンスのまとめ方

の問題と思われる

一定の長さの話(物語)には、
いくつかのシーケンスがある

各シーケンスの切り替わりは、

話題転換や舞台転換と



考えられるものだが

最初のプレゼンは、

シーケンスの切り替わりが

分かりにくかったのではないか

「プリントを売りに行ったこと」の話の場合

シーケンスは以下のようになる

シーケンス1	→	新潟に向かう
シーケンス2	→	展売をする
シーケンス3	→	1日目の夜のこと
シーケンス4	→	2日目の夜のこと
シーケンス5	→	3日目のこと
シーケンス6	→	東京に帰る

複数のシーケンスで構成される話の場合

●鑑賞者は

シーケンスの転換が不明瞭だと、
“話が飛んだ”と感じやすく
筋立てが理解し難くなる

●話し手（作り手）側は

話の進行がぎこちなくなるとともに、
話題転換・舞台転換によるメリハリが
つけずらくなる

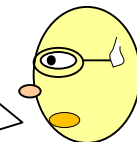
このようなシーケンスのまとめ方の問題は

子どもの語りや作文にも多く見られる

話の中で、いつのまにか、話題や状況が
つぎのシーケンスに切り替わっていて

話について行けなくなることが多い

ちょっと
まって
まって



子どもが シーケンスについての意識を持ち
そのまとめ方を学ぶことは

より良く伝える、という点で重要

では、シークエンスのまとめ方として
どのようなことが大切になるのだろうか

「プリントを～」の話に戻って考えると

加えた3枚の写真にその手がかりがある

[**展売会場**]と[**新潟駅**]と[**栃尾に行くバス**]

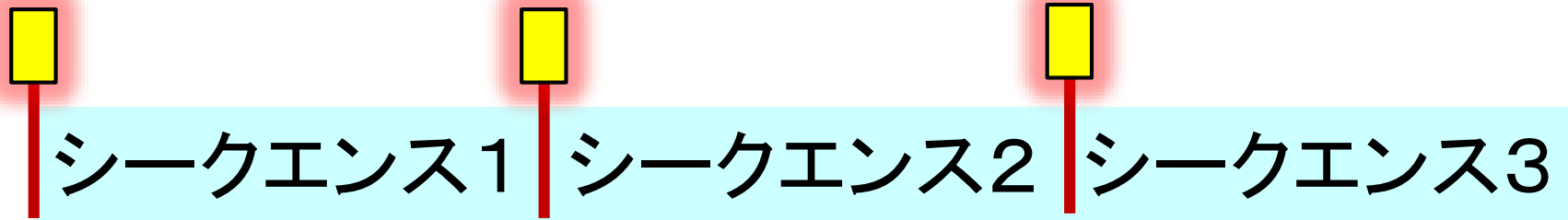
3枚は、場所や移動の写真

各シークエンスの[**舞台や起点**]を明確に示したら

話の展開がわかりやすくなった

シーケンスのまとめ方のポイント

シーケンスの始まりに明確な
刻みを入れる



写真の場合なら、**到着場所や到着時間の
マーキング**となるものがない



駅、バス停、会場、時計、朝日、月etc.

では ことばの場合は、何が刻みなるだろうか

ひとつは **いつ・どこ**

「2日目の夜は、映画館に行きました」

新しい時と場所をまず告げて、場面が
転換されたことを聞き手に意識させる

もうひとつは **シークエンスの名づけ**

タイトリング * 題名をつけること

お話や作文におけるタイトル構造

お話全体

全体タイトル

S(シーケンス) **1**

シーケンスタイトル

S**2**

シーケンスタイトル

S**3**

シーケンスタイトル

S**4**

シーケンスタイトル

各シーケンスの区切り・範囲の明確化

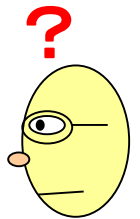
たとえば..

小学校でときどき、子どもたちが
お店屋さんをして互いに遊び合う
「～祭り」的なイベントがあるが..

いろいろなお店を回って遊んだ話を
子どもがしてくれるときに

シークエンスの切れ目が曖昧で
よくわからないことが多い

「魚釣りをして、つれなかったけど
くじは1等でした。」



そのような話のときは

全体タイトル

「ふなぼりっこ祭りのこと」

S1: タイトル まず「魚釣り」に行きました。

S2: タイトル つぎに、「宝くじ」に行きました。

S3: タイトル それから「的当て」に行きました。

のように、各シークエンスの先頭に
タイトル的な1文を入れてくれると
話の構造がわかりやすく聴きやすい

シーケンスは、その区画が
明確であることが大切

それなら **それならシーケンス終了の刻み**

たとえば・・・ **もあるだろうか**

真澄の旅日記や、芭蕉の俳句紀行などでは

和歌や俳句が、そのシーケンスの
最後に置かれていることが多い

その理由は

地の文(散文)と詩との性質の違い

という点もあるが・・・

もうひとつは **和歌や俳句は、心情の凝縮**

という点にあるのではないだろうか

一連の出来事への心情を吐露して

そのシークエンスを締めくくる

そういえば、自分も、プレゼン中のシークエンスを
同じように感想で終えることが多い

S1

「プリントはあまり売れませんでした。悔しかったです」

たとえば作文などでも、出来事の感想の記述が
終了のマーキングとして効果的と思われる

ここまでシークエンスの問題を考えてきたが

この頃はプレゼンを前提としている旅行などでは

移動し、到着した駅や景色などを  
できるだけ写真に撮るように心がけている

プレゼン想定資料収集

ということで、日々プレゼンを行っているのだが

最近はそのプレゼンに触発されてか

子どもが、写真や動画などを持参して

自分の体験を**プレゼン**してくれることが

多くなってきた

子どもからのプレゼンテーション

口頭作文などで、

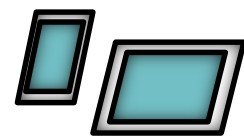
自分の体験を話す際に、



写真や動画、ときに物品などを見せて
説明・紹介をしてくれる

スマホやiPadで撮った写真や動画

パンフレットやチラシ、料理のレシピ



旅先で買った物や拾った物、そして**お土産**

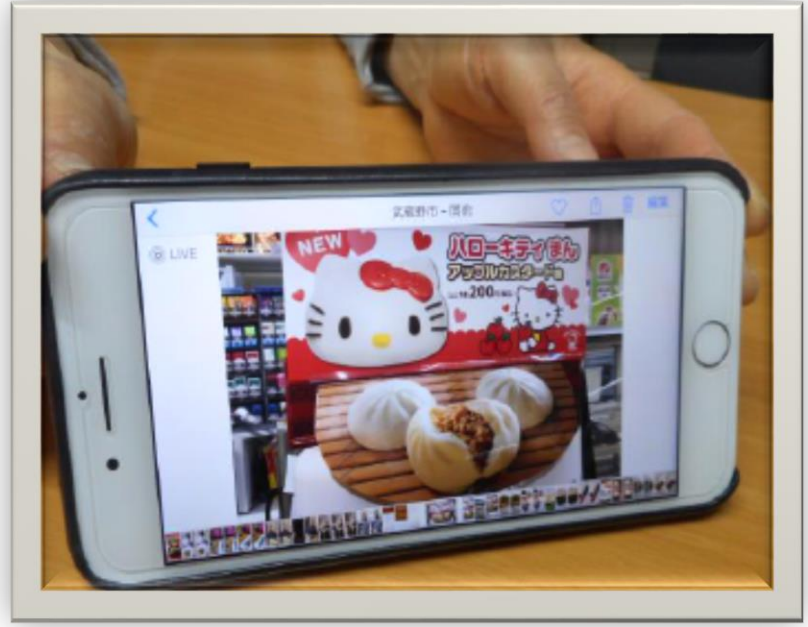
なかには詳細なレポートを

作って来てくれる子どももいる

子どもからのプレゼンテーション例



子どもからのプレゼンテーション例



子どもがいろいろな資料を使って
プレゼンをしてくれることには
たくさんの意義がある

まず 聞き手に対して

ほんとだ！

● 話の理解を援助する



という働きがある

ことばだけでは十分に表現できない
コト・モノを伝えることができる

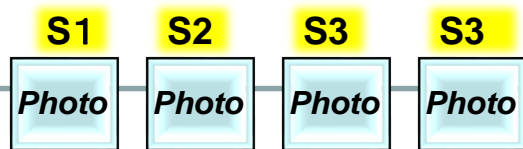
また、旅行などで撮った

複数の写真を見せてくれる場合

その写真が、お話におけるシークエンスの
起点や代表として機能していることが多い

つまり、写真を見せながら説明することは
話を聴きやすく、分かりやすくするとともに

● 子どもに、シークエンスについての
気づきをもたらす



という働きも持っている

そして何より ●話が楽しく面白くなる

子どもが自発的に持って来る

写真や動画等は

本当に人に見せたいと思うもの

だから面白い！

おー！



ことばは拙くても、写真や動画なら

伝えたいこと、そして、伝えたい気持ち



が、相手に伝わる

人に何かを伝えたいと思うこと



ことばの発達を促す原動力

たとえば、ある子どもは、ことばのテーブルで
自分の経験を話すことが習慣になってから

その子が、生活の中で、何かをしながら、
「あ、このこと、こんど先生にお話にしよう」



と言うようになった、と家族の方から伺った

伝えること=ことば を想定しながら、何かを
することは、単語や文法習得を援助する

つたえる作文

作文とはなにか

①文章を作ること、またその作った文章。

②教師の指導のもとに、
生徒が文章を作ること。

広辞苑より

学習としての作文の目的は何か？

- 日本語力を磨くため？
- 社会性向上のため？
- コミュニケーション能力をつけるため？
- 知的能力・思考力をつけるため？
- 日本語力や国語力評価のため？
- 表現する喜びのため？

作文は、できなければ、また、
上手くなければ、いけないものか？

そうであるとすれば、それはなぜか？

- 国語を中心した成績や入試のため？
- 将来の就労のため？
- 人とのコミュニケーションのため？
- 「書く」という活動の楽しみのため？

日本人にとって、学校で作文を書く
ことは当たり前だが

世界中の多くの国では
日本のような、学校での
作文学習は行われていない

日本の作文教育は、
どのような経緯で
現在に到っているのだろうか

日本における作文教育の流れ？

作文(さくもん) * 説明文を文語で作る

生活綴り方 * 日常生活を綴る

綴り方科 * 綴り方教師

戦後

作文(さくぶん)

綴り方運動

* 文章構成法

★ 山びこ学校

入試項目

文章構成法(コンポジション理論)について

学校の作文授業で、よく教えられる

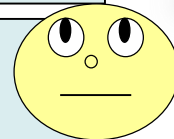
テーマを決め、書こうと思うことを、
まず箇条書きにし、章立て、
それから、それらをつないで行く

テーマ: 野球チーム

①メンバーのこと

②最近の試合のこと

③将来の夢のこと



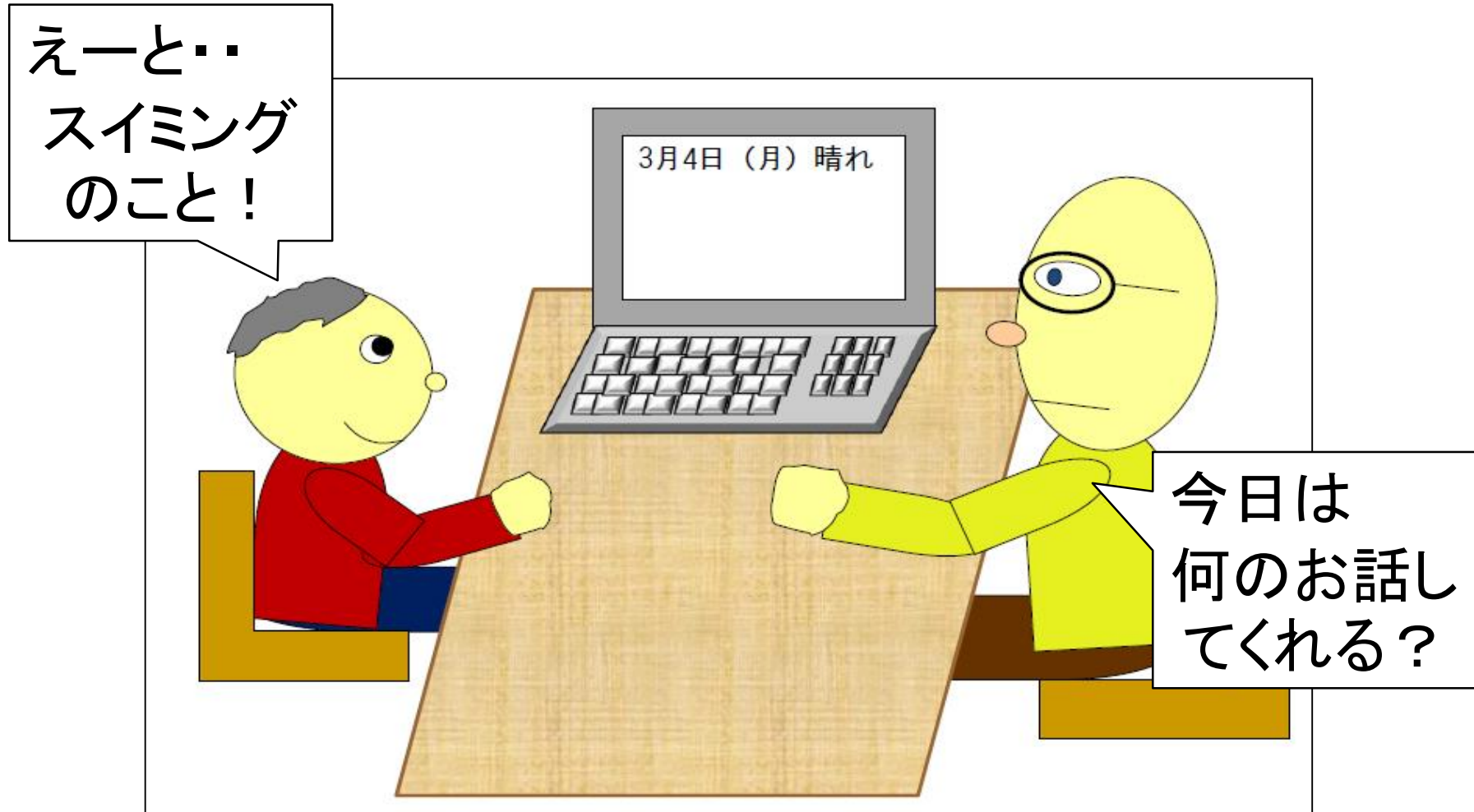
よし。さあ、書くぞ

というのがある

このような作成方法の
理論的背景と
なっているもの

ことばのテーブルでの
作文の学習

ことばのテーブルでは、PCを使って 口頭作文という学習を行っている



口頭作文の進め方

子どもに口頭で文を作らせる



指導者がPCに文を入力する



作成した文を子どもが読む

- 文は、指導者が援助しながら共同で作成
- 話すテーマのみ、事前に考えてきてもらう
- おしゃべりではなく、“語り”として話す

口頭作文のテーマ・内容

基本的には子どもが自由に決める

ただ、子どもの話す力が未熟な場合は
その日の出来事などを
定型的な枠組みで話をしてもらう

「きょうのこと」

* 平日モード・休日モード

その日の出来事の定型報告

* 平日モードの報告

「きょうのこと」

1時間目は算数でした。

2時間目は国語でした。

3時間目は体育で、なわとびをした。

.....

今日いちばんおもしろかったのは、
体育のなわとびでした。

授業の時程で、一日を枠組みする

* 休日モードの報告

「きょうのこと」

午前は、家でしゅくだいをしました。

おひるごはんは、うどんを食べました。

午後は、おかあさんと、イオンに、

かいものに行きました。それから、
ことばのテーブルにきました。

昼を挟んで午前・午後で一日を枠組みする

また、特定のテーマ・出来事の場合は
まず、「いつ・どこ・だれ・なに」を使って
全体の概要を伝える練習をする

「クイズ集会のこと」

2月15日の木曜日に、体育館で、
ゲーム集会がありました。

クイズをしました。3年2組が、ゆう
しょうしました。ぼくたちの3年1組は、
3位でした。

異なる経験を、最初から
どれも上手に語ることはできない

これなら語れる、という



よし!

パターンを増やすことが大切

運動会パターン・病気パターン・試合パ
ターン・遠足パターン・・・etc.

5月28日に、野球の試合がありました。
ぼくたち小岩スターズは、葛飾ナインズと
対戦しました。僕は、ライトで8番で出場し
ました。試合は4対2で小岩スターズが・・

口頭作文のポイント

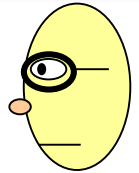
- 指導者の援助
- 作文の推敲
- 作文についての質問
- 作文を音読する

● 指導者の援助

テーマについて、必要と思われる
情報を問い、文章に入れさせる

誰と、行ったの？

いつ、行ったの？



とくに、5W1Hのような、話の骨子
となる部分の想起・言語化を促す

ことばや文法の修正を行う

そこは、楽しい、じゃなくて、楽しみ、だな

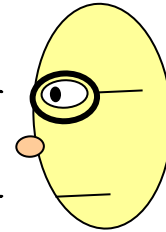


● 作文の推敲

できた作文に、変更・修正や
追加・削除がないかを点検させる

これで合ってる？

もう他にない？



推敲というプロセスの存在に気づかせる



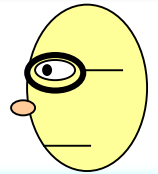
あ、やっぱり、「3組の」を入れて！

！ 電子機器は、文の修正が行いやすく便利

● 作文についての質問

完成した作文の内容について
指導者が質問する

じゃ質問！ くじの1等って何だったんですか？



聞き手も話に関心を寄せ、話に参画する



* 話し手の伝える意欲を高める
そして

* 作文は人に伝えるもの、だと気づく

本当に伝えたいことなら、子どもも熱心に質問に答える

● 作文の音読

出来上がった作文の音読を通して
援助を受けた整った文に触れる

子どもの初期の作文は、
基本的に大人が手伝うもの

とくに語彙や文法に未熟さがある子どもは
表現の見本を示さなければならない



そうか、こんなふうには書けばいいのか！

さらに **読み返しの大切さ**

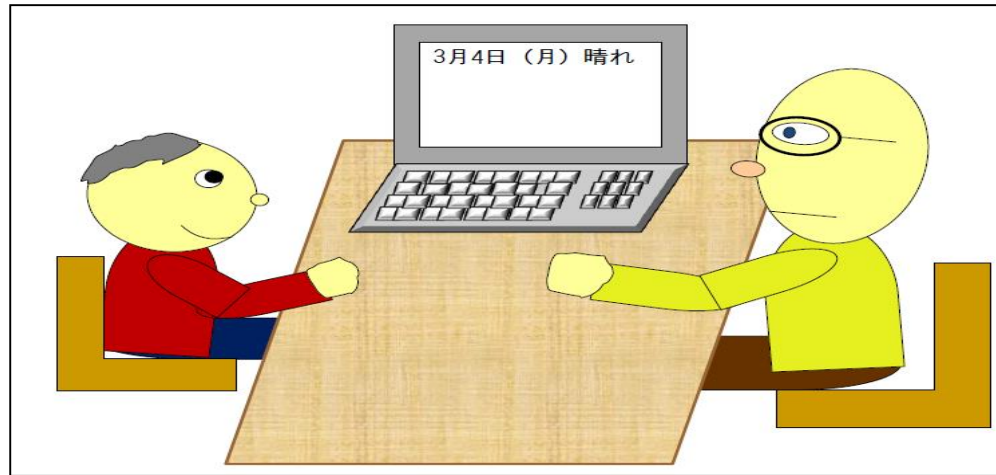
作ったところまでの文章を
何度も音読して見る

そのことにより

- ① 誤りや重複に気づく
- ② 文のリズムに気づく
- ③ 新たな内容の発見につながる

* ころころの流れ(軌跡)を辿ることが
そこから先の道筋を示す

ことばのテーブルでの口頭作文は



作文との共通性が高く、
作文能力に直接つながって行く活動
と考えているが

一方で、限界もある

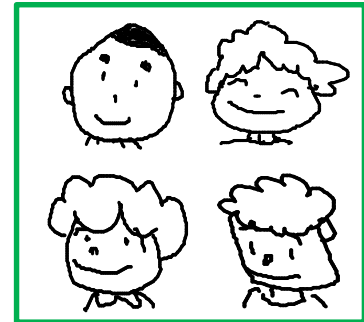
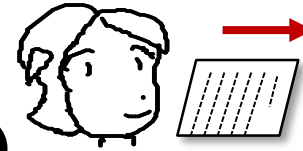
口頭作文の限界

- 子どもから先生への
2者間での伝達になる
- 制作時間・文字数の限定
- ひとりきりで書く活動ではない

● 子どもから先生への 2者間での伝達になる

* 作文は本来、
不特定多数の人を
対象とするもの

みんなが
わかるように



先生に対する伝達である口頭作文では
どうしても、客観性や一般性の
意識が薄くなる



できた作文を、俳句のように
壁に貼れるといいんだけど・・・

●制作時間・文字数の限定

制作時間や文字数の制限

また子どもの能力的制限もあり

どうしても、事実の正しい報告や
わかりやすい記述を優先して
それにとどまってしまうやすい

物事に対する細かい描写や、 
こころの動きなどを盛り込むことが難しい

口頭作文では副詞の出番が少ない

やっと、さっぱり・・・

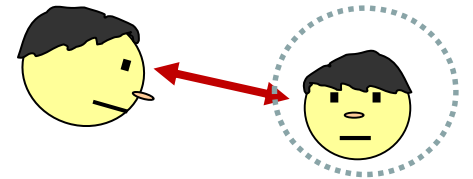
●一人きりで書く活動ではない

作文という活動の本来の姿は

自分ひとりだけで行うもの

ひとりで試行錯誤しながら文を紡ぐ

自分との対話 であり 自我を育むもの



★共に作る口頭作文が
本来の作文につながって行けばと思う

口頭作文のほかに行っている作文学習

- テーマ作文
- 観察作文
- 報告練習
- 創作練習

● テーマ作文

* どんなことでもいいから思い浮かぶことを書く

テーマ作文①

* について、

思い浮かぶことをメモしよう。

たとえば・・・いつも、
どこで食べてる？



テーマ

ぼくは、ラーメンが大好きです。
.....
お店で食べるときは、いつも、
.....
みそラーメンです。くるまやで食
.....
べています。家で食べるときは
.....
チキンラーメンをつくって、たべ
.....
ていますが、タマゴを、いれと

.....

何でもいから、
.....

最後の行まで字を埋める →

テーマ作文の目的

「何でもいいからとりあえず書く」
という行為になれる



まず何かを書き出すことにより
意味が生み出されていく



自分のところにあるものに
気づいて行く作業

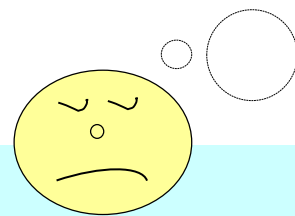
文章
構成法

* 内容の整合性や文法・語彙の不適切、
表記の問題などにはこだわらない

まず何かを書く場合、

取りあえず、目に浮ぶ「景色」を

書くことが多い



でも周辺的なことを

書いて行くにつれ

何かを思いついたり

また本当に自分が

言いたかったことや

感じていたこと

に気づかされる

ことが多い

暗黙知

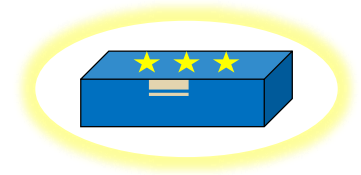
「俳句をよもう」の解釈文



模様がちがう二つのお皿。いつ買った
んだらう？ それとも、もらったのか
な。形も大きさも、よく似ているけ
れど。そうか。ちがう、ってことは、似て
いることでもあるんだなあ。お皿の上
を、秋風が吹き過ぎて行くよ。

秋風や 模様がちがふ 皿二つ

● 観察作文



* 事物を細かく観察して描写する練習

かんさつ作文③

テーマ

ふでばこ
筆箱について

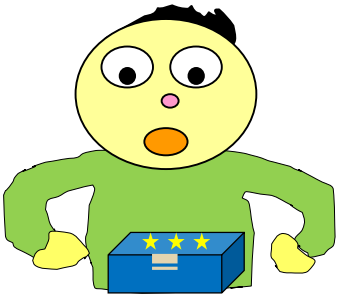
★使っている筆箱を見ながら書いてみよう。色は？ 形は？

ぼくが、いま、つかっているふで箱は、青い
ふで箱です。形は長四角です。ふたをあけて
つかいます。きいろい星のマークが、3つ、つ
いています。小学校にはいるときに、おばあ
ちゃんに、かってもらいました。

さくぶん よ
◎作文ができたなら読んでみよう

細部を描写する

えーと、
色は・・・




対象をよく見て、また、それについての記憶を思い起こしてわかったことを何でも書く

- 色・大きさ・形・数などの形容を表すことばを使う機会になる
- モノの機能や、値段、所有のプロセスなど、社会的事柄を知る機会になる

● 報告練習

* 報告における表現を学ぶ

自分のことを話そう② 旅行	
どんなところに、旅行に行ったことがあるか。	箱根、京都、大阪、富士山など
いちばん、よかったところは、どこか。	富士山
いま、いちばん行きたいところはどこか。	南極
どんな人と、旅行に行ったことがあるか。	家族、学校の先生や友だちなど

自分のことを話そう

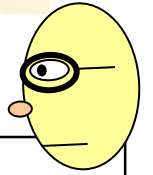
各テーマについて
自分自身の経験を
思い出し、報告する

家で記入してきて
次の指導時に
報告する

「自分のことを話そう」の伝達形式



お願いします



それでは旅行について、お話しします

どんなところに旅行に行ったことがあるか、
は、箱根や京都、大阪、富士山などです。

いちばんよかったところは、富士山です。

報告内容をつなげて文章にすれば

簡単な作文にすることもできる

■ インタビュータイプ ■ 調査報告タイプ もあり

● 創作練習

* お話を想像し創作する練習

学校の作文学習の中には、
「自分でお話を作ってみよう」のような
創作をテーマとする場合があるが

ことばのテーブルでの創作学習は

ふるむとの
たけのこの里
明治かな

俳句作り

事実の伝達から離れ
想像の面白さを知る

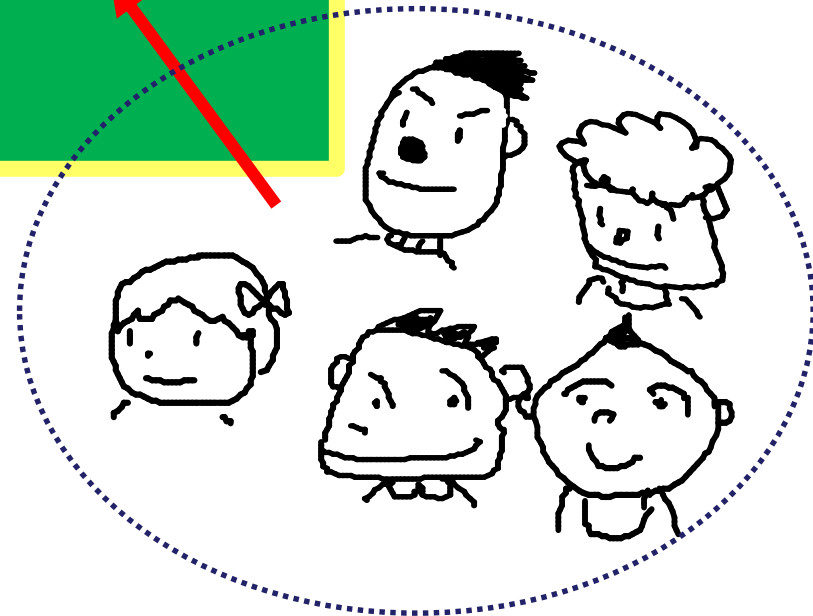
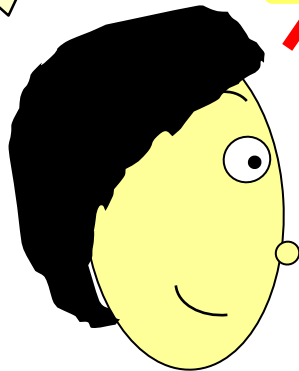
雪がふる
外に出ようよ
雪だるま

作文・プレゼンテーションの 集団での学習課題として

● 共同作文

* 指導者が援助しながら、クラス全員で協力して、ひとつの作文を作る

みんなで、
作文を
作ろう！



テーマ：遠足のこと

いつだっけ？

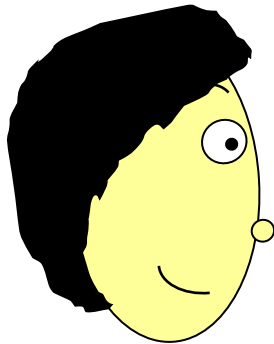
何で行った？

どこだっけ？

6月14日に、バスで高尾山に行きました。

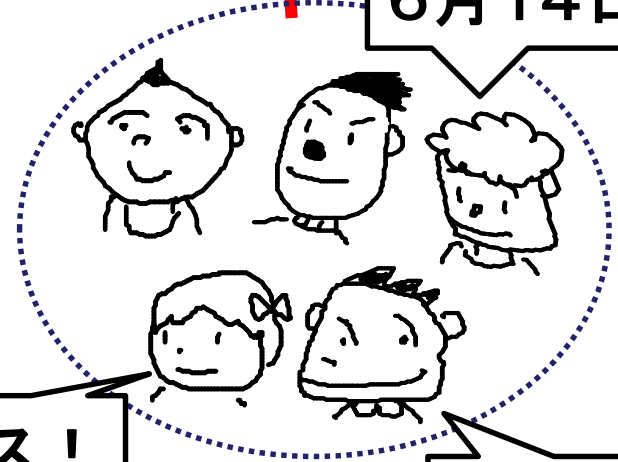
常識

共有性



じゃあ、
文にして
みよう！

6月14日！



バス！

高尾山！

「共同作文」の目的

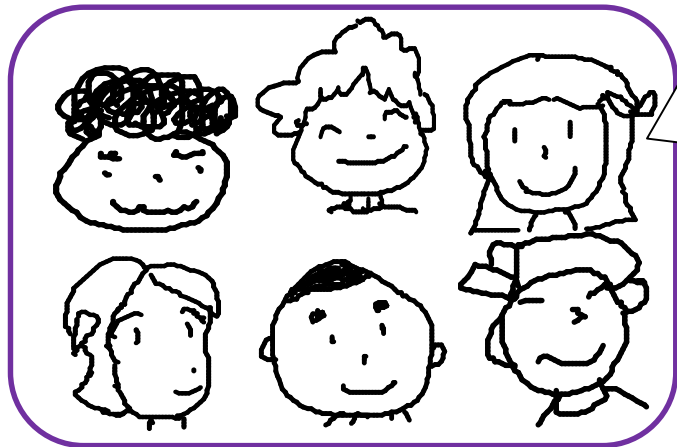
- * 協同学習により、
相乗的な能力の向上を図る
- 能力の乏しい子どもには、
文章完成の達成感を持たせる
- 能力の高い子どもには、教授・伝達
により知識を活性化させる

●グループ単位によるプレゼン

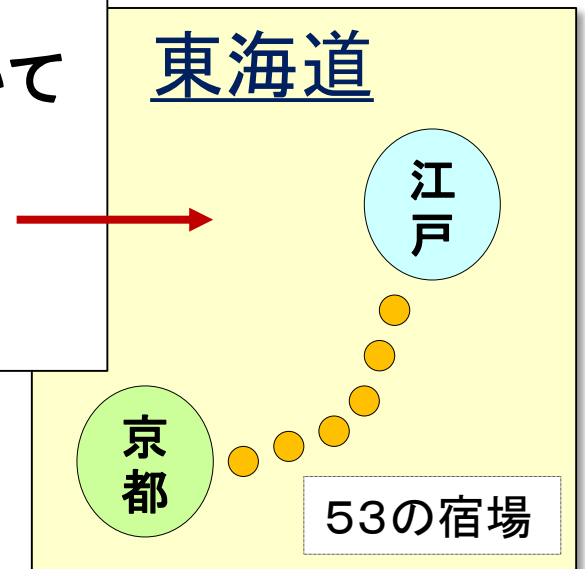
【五街道についてのプレゼン】

Aグループ

「東海道」担当



私たちは「東海道」について発表します。まずこの地図をごらんください。



共同で制作し、分担して発表する

そしてさいごに・・・

先生や家族も作文を書こう

作文を書いて、子どもと読み合う

生活綴り方運動で知られる無着成恭著の
「山びこ学校」を映画化した「山びこ学級」に
興味深い場面がある

担任の先生が、生徒たちに、自分の生活
についての「作文」を読み聞かせる



学びは、つねにかわりばんこがいい

旅の学び

旅は、作文やプレゼンよく似ている

目的地(テーマ)があって、そこに向かって
行く(書く)のだが、途中寄り道をしてしまい

計画していたのとは、違う旅(作品)に
なってしまうことも多い
でも

その予定調和でないプロセスが
自分のころころにあったものを気づかせ

歩みを進める(書き進める)ことによって
ころころは拡がり、膨らんでいく

それから **旅は移動の連続**

黙々と歩く時間は、

図らずも人に、考える時間を与える

★菅江真澄は旅の中で、知の巨人になっていった

秋田にある真澄の墓碑銘には、

こう記されている

三河の国より、雲はなれてここに来たり。

夕星の輝くように、年あまねく**旅の学び**を・・

書を持ち旅に出よう

★【参考・引用図書および文献】

- 『人はなぜ書くのか』 認知科学選書16 東京大学出版社
- 『山びこ学校』 岩波新書
- DVD『やまびこ学級』（1952年八木プロ制作） 紀伊國屋書店
- 「山びこ学校と戦後教育学序説」東和光大学現代人間学部紀要第6号
- 「森岡健二におけるコンポジション理論」学芸国語教育研究第17. 1
- 『想像力』 講談社現代新書
- 『言語発達心理学～読む書く話すの発達～』（財）放送大学教育振興会
- 『作文ダイキライ』 学研M文庫
- 『生活綴り方再入門』 地歴社

- 『菅江真澄遊覧記 1～5巻』 平凡社『菅江真澄全集』 未来社
- 『菅江真澄 旅人たちの歴史2』 未来社
- 『辺境を歩いた人々』 河出文庫
- 『探求の人 菅江真澄』 無明舎出版
- 『なぜ和歌を詠むのか』 笠間書院

菅江真澄関連画像
秋田県立博物館より
使用許諾